

校長通信

Morifun

<卒業式 144名 巣立つ>

3月1日(月)に卒業式が行われました。昨年同様に新型コロナウイルス感染症対策として、来賓はお呼びせず、保護者も原則1名参加としての実施となりました。144名が本校を巣立っていきました。本来であれば、在校生に見送られて…というのが常ですが、生徒会執行部の6名が代表として参加しました。

式辞「今、私たちを取り巻く環境は大きく変化し、グローバル化やIT化が進む中、コミュニケーションの取り方や他者との交流の在り方が変わり、またAIによって社会の価値観も大きく変容しつつあります。さらには、コロナ禍が追い打ちをかけ、様々な不安やストレスにさらされています。特に新型コロナウイルスは様々な形を変え、我々人間をまるで試しているかのようです。コロナをきっかけに、他人との接触を避ける技術の導入が進みました。ずっと先だと思っていた先進技術による仕事の代替がより早まった気がします。コンビニのレジがセルフになったり、飲食店ではセルフオーダーが導入されたりしています。AIに仕事を奪われる未来も、案外先のことではなく、単純作業はすでにAIの領域になりつつあります。そのような社会で生き抜いていくために、私たちは、より「人間らしい能力」を大切に、自立心や協調性、道徳心、他人を思いやる心、チャレンジ精神を育まなければなりません。民法の改正により、4月になれば成年となる皆さんが一人でも多く日本の未来にコミット

し、社会に主体性を持ってかわり、共に成長することが必要となってきます。

成年へ、そして社会人として一步を踏み出す皆さんに、宮澤章二という詩人の「行為の意味」という詩を贈ります。

行為の意味

あなたの心はどんな形ですか
人に聞かれても答えようがない
自分にも他人にも心は見えない
けれどほんとうに見えないのであろうか
確かに心はだれにも見えないけれど
心づかいは見えるのだ
それは 人に対する積極的な行為だから
同じように胸の中の思いは見えないけれど
思いやりはだれにでも見える
それも人に対する積極的な行為なのだから
あたたかい心が あたたかい行為になり
やさしい思いが やさしい行為になるとき
「心」も「思い」も初めて美しく生きる

宮澤章二さんは、人の心の中は誰にも見えない。どんなに思いがあったとしても、行為として表さない限り、人には伝わらない。自分の思いを積極的に行為という形にして表した時に初めて意味のあるものになってくると言っています。そうは言っても、自分の思いを行為として表すことは、時に、恥ずかしく、勇気のいることです。思いやりの気持ちを持っていても、なかなか行動に移すことは難しい。しかし、その美しい気持ちは、行為になってこそ、初めて意味があるということに気づいてもらいたい。皆さんすべての人が持っているやさしい気持ちが、たくさんのあたたかい行為となってこの世の中に生まれてほしいと願わずにはいられません。」

送辞(2年1組中居早瀬君)「新型コロナウイルスの影響で生活が制限される中、先輩方からたくさんのことを学びました。体育祭や文化祭では、全力で取り組み、楽しみ、団結している姿に毎年圧倒されました。部活動では、熱い闘志で厳しい練習に食らいつき、努力する姿は、後輩の心に強く刺さりました。高い目標に向かって、日々ひたむきに粘り強く

精神を鍛える大切さを学びました。行事のみならず、学校生活のすべての場面において、勉学に励む姿勢、いつでも私たちに親しみを込めて笑い返してくれる優しさ、そして何事にも全力に取り組む姿勢は私たちの模範でありました。

先輩方がこの学校を卒業してしまうのは、新しい進路に向けての旅立ちという嬉しいことではありますが、先輩方の笑顔と出会えなくなることは、私たちにとっては寂しいことです。それでも私たちは先輩方の夢に進む一步を心から応援しています。

先輩方が教えてくださった「生徒自らが作っていく学校」を引き継ぎ、更に伝えていきます。この盛岡大学付属高等学校で学んだこと、身につけたこと、積み重ねた大切な人達との思い出を忘れず、それぞれが思い描く次の目標に向かって一人ひとりが輝き続けることを願って、送辞とさせていただきます。」

答辞(3年2組剣持太洋君)「私たちは、高校三年のうち、ほぼ二年間を新型コロナウイルス感染症の影響に苦しみながら過ごしてきました。この未曾有の災禍によって体育祭は自分のクラス以外の観戦は禁止、盛附祭ではイベントや模擬店の禁止など、様々な制約を受けました。また、スキー教室や遠足も中止となり、高校生活で一度しかない修学旅行も中止になりました。私たちはこれらの仕方なく受け止めるしかない現実にもどうしても、負の感情を抱かざるを得ない時期もありました。しかし、このつらい状況によって、今まで当たり前であった行事や生活がどれだけ幸せなことであったのか、思い知らされました。この災禍が落ち着いた暁には、日々の生活に感謝する気持ちを忘れずに過ごしていきたいと思えます。」

(中略)そして、普段は、素直に気持ちを表現することができない両親へ、この場を借りて感謝を伝えたいと思えます。まず、18年間育ててくれてありがとう。寮生活を通して、親のありがたみというものを知ることができました。家計を支えるために一生懸命働いてくれる父。忙しいのにたくさ

ん試合を観に来てくれてありがとう。そして、進路を誰よりも真剣に考えてくれた母。寂しいはずなのに、実家を離れることを尊重してくれてありがとう。2人とも私にとって、なくてはならない存在です。長生きしてください。まだまだこれからも迷惑をかけると思いますが、よろしくお祈りします。これまでの感謝は絶対に恩返しします。この気持ちは、きっと、私一人のものではありません。ここにいる卒業生全員の心からの気持ちです。」

はなむけの言葉(山添勝寛理事長)「みなさんはこれから進学して引き続き勉学に励む人、実社会に羽ばたく人などそれぞれの道を歩むこととなりますが多くの人の胸に刻まれた「さわやか」「ねばり強い」という「盛附」の印象をさらに確かなものにしてくれるよう期待します。

人の一生は山あり谷ありです。卒業後、人生の難局に直面した時などに養分補給が必要な時には校舎横の細川泰子記念礼拝堂で自己を見つめ直したり雄大な岩手山を望む砂辺キャンパスを訪れ、英気を養ってください。在校生、教職員一同、みなさんを歓迎します。」

はなむけの言葉(PTA 会長田村大輔様)「この困難を、苦境を、乗り越えようと諦めず行動してきたことは、皆さんの中に、耐える強さと挫けない心を培い、手を取り合い誰かを思いやる心を宿したはずです。

経験は、人を成長させます。

経験は、他の誰かに変わることはできません。

収束と拡大、いまだ見えない先行きは、不安ばかりが募る状況にあるかと思いますが、コロナ禍という経験から、培い、宿した心は、きっと皆さん自身を克服へと導いてくれることでしょう。

そして、どんな苦難をも好機に変える、明るく、前を向いて歩む姿で、社会に博愛をもたらしてくれることを期待しております。」

以上、当日頂戴したことばを一部ですが紹介します。今度は在校生の皆さんが本校の主役となります。先が見えない状況は続くと思いますが、主体的に目標を持って学校生活に取り組んでください。

<卒業礼拝より>

新約聖書 コロサイの信徒への手紙 3章 14節
これらすべてに加えて、愛を身に着けなさい。愛は、すべてを完成させるきずなです。

この3年間を振り返ると、皆さんの高校生活3年間の3分の2は新型コロナウイルスの中、大変な状況の中過ごしてきたことになり、色々苦勞も多かったと思います。楽しみにしていたことがなくなってしまったり、目標が消えてしまったり、色んな悔しい思い、辛い思いをしてきたと思います。同時に色んな事を考える時間もありました。このコロナ禍の中、皆さんが考えたことが今後の糧となって、新しい力になることを、そして皆さんの世代の新しい考え方が世界を照らす光になることを願っています。

今日お読みした「愛は、すべてを完成させるきずなです。」この言葉はこの1年間何度か取り上げてきましたが、改めて聖書の語る愛について話したいと思います。聖書の愛はアガペーということをお伝えしてきたわけですが、この言葉は好きとか大好きとかの気持ちを表すだけではなく、心の中では苦手だとか嫌いだなと思っていても、愛するというのは相手を尊重する、大切にするという意味を持つのです。キリスト教が伝える愛は、たとえ心の中では何を思っても、少なくとも行動として相手を尊重する、相手の存在をかけがえのないものとして大切にしようという姿勢を表す言葉なのです。

コロサイの信徒への手紙でも、色んなものを身に着けているわけですが、最後に身に着けるもの、色んなものを一つに結びつけるのが愛だということです。皆さんも三年間色々な経験、勉強や部活動を通して身に着けたものが、どういうときに力を発揮するかというと、愛を身に着けた時なのです。言い換えると、自分を大切に、人を大切にしようとするときに、これまで身に着けてきたことが真の力になる。大切な誰かのために言葉を紡いで懸命に行動しようとするときに、より大きな力を発揮することとなるのです。愛が、すべてを完成させるきずなである。これから新しい生活が始まるわけですが、人を大切にするという、

愛を目指して、自分なりの目標、やりたいことを見つけていってほしいと思います。(2月28日 卒業礼拝 花巻教会 牧師・鈴木道也先生)

<年度末の行事より>

【2学年探究学習発表会 3月11日(金)】

「各グループが取り組んできたことを互いに知り、新たな刺激を得る相互啓発の機会とする」等を目的に、事前にクラスでの発表会(予選)が行われ、それぞれ代表グループが選考され計9グループが当日発表を行いました。

【先輩からのメッセージ(特進コース) 3月15日(火)】

特進コースの卒業生から1.2年生に、自身の進路決定の経過(動機・準備・受験本番)に基づいてアドバイスをもらいました。5人の卒業生からは、学校推薦型選抜や大学入学共通テストそして2次試験までの取組などを中心に、社会問題や日々のニュース等に触れ分からないことはすぐに調べる、失敗してもそこから何を学べるかを学ぶ、志望理由が明確なこと、コツコツと基礎学習に頑張ること、友達と勉強を分担して教え合うことなどが話されました。総じてクラスの仲間と励まし合い切磋琢磨して入試を乗り越えることができたこと異口同音に述べていました。今年度は一般入試で北海道大学医学部保健学科、岩手大学教育学部理数教育コースに合格者がいたことは特筆すべきことです。

<ご退職となる先生方>

3月31日付で退職される先生方をご紹介します。本校の教育にご尽力いただき大変ありがとうございました。先生方の今後のますますご活躍を祈念申し上げます。

ご退職：赤坂昌吉先生(理科) 高橋郁子先生(養教)
高橋和夫先生(理科) 川口茂先生(英語)

